

5月の果実の見通し

平成31年4月26日現在
山形県東京事務所

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
いちご類		2,483	90%	2,449	922	高い	861	-	-	いちご全体を見ると5月上旬まで各県の出荷量はあるものの中旬以降、出荷終了となる産地が出始めだらだら出荷が続く、下旬には九州産地が出荷終了を迎える。5月下旬は関東産だけになり、昨年と同じく切上りも早くなる可能性がある。
おうとう		170	105%	127	2,826	前年並み ~安い	3,687	57	34	ハウス物のスタートは山形産3月中旬、長野産3月下旬、山梨産4月中旬から販売開始となった。暖冬のため加温開始は前年より遅れるも、現状の生育ペースはほぼ前年並み。5月連休に向かって数量も出揃い、4月末から「母の日」にかけては出荷潤沢の見込み。荷姿は「母の日」までは化粧箱中心、それ以降はパック中心。入荷増にともない価格も下げ気配強まり、量販体制となる。露地物は例年どおり5月下旬からのスタートの予定。
すいか類		7,387	105%	6,574	287	安い	286	1	0	熊本産の生育が良く4月の販売量は多くなり、5月連休中も潤沢出荷が見込まれる。千葉産の生育も順調で昨年より若干早い出荷と見込まれる。こだま西瓜も2月の低温後のものが始まり、5月は出荷増。熊本産「黒小玉すいか」の出荷が下旬から始まる。
メロン類		3,661	105%	3,433	502	安い	532	1	0	熊本産・茨城産とも4月下旬から「アンデス」「クインシー」は出荷ピークに入り、量販店で取扱いは多くなり棚も大きくなる。連休明けからはだらだら出荷が続く減少傾向に入り、中・下旬からは「タカミメロン」に変わる。出遅れていたが「アールスメロン」も現状回復傾向にあり、5月出荷量は前年並みを見込む。
マンゴー	※おうとうの競合品目(母の日ギフト需要)として、参考掲載	121	110%	116	3,252	前年並み ~安い	3,515	-	-	前進出荷している宮崎産は5月に入っても順調な出荷が続く、特選品「太陽のタマゴ」も順調な出回りとなり「母の日」ギフトの主力商品という位置づけは揺るぎない。中旬からは出荷量は多いものの昨年比110%の出荷が見込まれる。鹿児島産においても前進出荷が続く昨年より多い出荷量となる。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)